

ホーム名:グループホーム(ゆとり)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作ったものは難しい表現が多い、という指摘を外部評価で受けてから、わかりやすい・簡潔なものに作り変えている	「入居者の心と身体を大切に 入居者の尊厳を守ります」を理念に掲げ、玄関正面の壁に掲示している。常に寄り添うという気持ちを忘れず、気になることは都度メモを取り、職員同士で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者行事や住民組織に加わるほか、ホームが開催する運営推進会議に地域の民生委員の参加を得ている	コロナ禍で中止にはなっているが、「高齢者食事会」には職員が出席し、認知症について説明することで地域の理解を得ている。また、現在は受け入れ困難だが、中学生のトライアルウィークを受け入れ、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一敷地にある診療所の患者、デイケア利用者などから、介護にかかわる相談を受けることがある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表として民生委員の方にご参加いただいているが、すべて新任の方なので、今までホームに対して疑問に感じていたことなど率直に話されている このほか行市役所職員(保険者)・地域包括職員の参加がある	運営推進会議を対面開催し、市職員や地域包括の職員、自治会代表者も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備され、職員で共有されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市(保険者)には運営推進会議を通じて隔月にホームの現況・事故・ひやりハットを報告している また市(保険者)の依頼で介護相談員の受入、キャラバンメイトの会議参加を行っている	運営推進会議等での連携だけでなく、毎月、2名の介護相談員が市から来訪され、入所者1人1人の意見を聞き取って報告いただける。入所者が職員に言いにくいことを把握できるだけでなく、入所者の気分転換にもなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	精神病院からの入所の場合「薬漬け」「拘束漬け」となっている方が多いが、医師・看護師と相談をしながら拘束をしない介護を目指している 日中スタッフがいない時間帯には離床を促し様子観察を行っているが、現在も夜間4点柵を止むを得ず行っている方がおられる	身体拘束をしないケアに務め、他施設で拘束が必要だった入居者も状況が改善した事例がある。現在、ベッドの4点柵を使用している入居者がいるが、家族ともよく相談し、ケアプラン変更時にも見直しを行っている。身体拘束検討委員会も主治医や看護師に参加いただき、適切に実施されている。	身体拘束検討委員会の議事録は適正に整備されているが、参加していない職員も内容を認識できるよう、共有をしっかりと図っていただきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所がないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の折など、研修の機会を設けている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在の入居者はすべて近くに家族がお住まいであるが、その家族が「きょうだい」であったり、「高齢の子ども」「病気がちの子ども」もおられる。そういった家族の方が持つ不安に応えられるように、今後研修の機会を持ちたい</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所にあたって契約書・重要事項説明書を十分に説明をしている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ禍で面会制限があり、家族との連絡は電話が多くなっている。毎月家族に送る「便り」には、個々の入所に定めている「担当者」が入所者の近況などを文書で伝えている。なかなか直接ご意見を伺う機会がないが、担当者を窓口「伝えやすい」雰囲気作りに努めている</p>	<p>入所者には「担当者」が日々寄り添っており、意見や気づきは即時にメモを取る習慣が根付いている。アンケート調査ではすべての家族に回答いただき、きめ細やかな配慮や医療面での安心感に高評価をいただいている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議を行う前に、職員全体で話し合うテーマ・議題を前もって募集し、会議の議題としている</p>	<p>職員会議を年に3,4回実施し、その都度、職員からの提案に基づいた議題を話し合っている。日常的に職員間で意見を述べ合える良好な関係作りができており、それが事業所の家庭的な雰囲気づくりに繋がっている。</p>	<p>定期的な職員との個別面談の実施も検討してみてもどうか。改まった場でのみ聞ける話もあると思われる。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>家族介護に直面している職員がいたり、またこの間新型コロナの本人・家族の感染に直面し、勤務者確保に苦勞をした。入居者の安全を第一にしながらも、職員が安心して働けるように努めている。この間のコロナ禍においては併設している診療所での検査・治療の配慮、ワクチン確保、倦怠感時の診察を行っている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>感染予防のため、併設している診療所の看護師から、防護服の着脱や(感染の疑われる)汚物の廃棄の仕方など学んでいる</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域ケア会議など地域の事業所が集まる機会がコロナ禍で久しく行われていない。その中キャラバンメイトの会議が行われ、当ホームのメイトも参加をし、地域の事業所や校区福祉委員のサポーターに混じり、地域の要介護者の啓蒙にかかる支援を話し合った</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談を経てから入所前に短時間の体験利用をしてもらうことを勧めている 本人・家族が契約前に安心して利用してもらうために、そういった機会を作っている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所契約を結ぶ前に、本人や家族のニーズ・要望を聞き取る ホームとしてどのようなサービス提供ができるのか(できないのか)を家族に伝え、本人・家族のニーズに沿えるものかを判断してもらう</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用相談があっても、本人の様子から要望に沿えない方もおられる 本人が最も必要とするニーズを見きわめ、必要であれば他の事業所や相談機関を紹介する</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事の準備・あとかたづけ・洗濯物たたみなど、安全にできる作業を、お手伝いいただいている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ禍が続き「面会中止」「制限された面会」をこの間繰り返し、本人もホームから外出ができない状態が続いている 面会は月3回・2人・15分・飲食禁止・事前予約をお願いしているが、面会に来られる家族は半分くらい、月1~2回の方が多</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会制限(面会禁止と制限付きの一部緩和)がここ数年続いている 電話をかけてもらうように促している方、また不穏時など電話をこちらからかけている方もいる 面会でもすぐに思い出せなかったり、電話だと余計に誰かわからないまま受け答えをされている方もおられる</p>	<p>手紙や電話など、家族や知人とのコミュニケーションをとるための支援を行っている。地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍において面会の制限はあるが、挨拶や声掛けも徹底している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>離床を促していることでユニットで過ごす時間が長くなり、入居者同士のかかわる時間は多い 「見えにくい」「聞こえにくい」「集中しにくい」など個々の入居者の特徴を見て、座席の配置を考えている スタッフとの一対一の会話よりも、入居者同士が支えあえるような関係づくりを目指している</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>これまでに在宅に戻ったケースもある 在宅に戻ること居宅のケアマネやサービスに引継ぎを行っている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを表現することが困難な利用者が多い 入所前ご家族などから今までの生活の様子を聞き取ると共に、入所後の普段の生活から本人の思いを聞き取り、記録に残して職員で共有するように努めている	日々のやり取りの中で思いや意向の把握に努めている。食べたいものなど、利用者が望んだことは、できる限りすぐに叶えられるように職員間で話し合っている。事業所から支給されているウエストポーチに職員全員がメモを入れ、気づいたことや得られた情報をすぐに書き留めるように徹底している。担当がカルテに書き写し、毎日全員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人がホームでの新しい暮らしに馴染むために、これまでどのような生活を送ってこられていたかを、家族・ケアマネなどから入所前に聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢や体力など個々の入居者によって有する力の差が生じている無理のないように生活をおくってもらうため、状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者には「担当者」を定めている 一年ごとの担当替を行っているが、本人・家族から要望がもたらされた際は直ちに管理者に伝え、介護計画の見直しのためのケース会議を必要に応じて行う	かかりつけ医・看護師・理学療法士の意見を取り入れて作成している。ケア会議を半年に1回開催し、介護計画をその都度見直している。	今、本人ができることは何かなど、言葉を掘り下げて具体的に記載するよう意識いただきたい。また、本人や家族から聞き取った想いをケアプランに言語化し、それに基づく目標と期間を設定してみてもどうか。それにより、自分たちを理解してもらっているという安心感に繋がると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には午前・午後・夜間と少なくとも3回記録を行っている 夜勤から早出、早出から日勤、日勤から遅出、日勤から夜勤と毎日4回の申し送り(交代制のため)は、その記録に基づいて行っている 特に夜勤帯は1時間ごとの見守りを行う都度記録を行うので、便秘・見当識障がい・不眠などの情報の記録によって、「見直し」に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所中にご本人の体調も変わったり、身体的あるいは精神的にも必要とする介護サービスの内容も変化してくる ホームの中でのサービスのみでは間に合わず、買物や諸手続きなど家族と相談の上必要なサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前から本人の生活を支えていただいていたご近所の方の面会などもあったが、コロナ禍で面会制限を行ったことで、そういった入所前からの地域の方とのつながりはなくなっている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理は嘱託医である診療所が行っているが、入所前から通院している精神科など、本人・家族の希望に沿った通院をいただいている	隣接した協力医療機関と密接に連携をとり、週1回主治医の往診があるため、入居者や家族だけでなく職員の安心も得られている。外部機関へは家族同伴のもと通院し、情報共有を行っている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>同一敷地にある診療所の看護師に入所者の日常の健康管理について助言を受けている 診療所には入院設備があることで、夜間でも看護職員がいるので相談支援を受けることができる</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>軽い症状の際は同一敷地にある有床診療所に入院し、「住み替え」による認知症の進行に気をつけている 可能であれば入院中であっても「外出」をして、白馬で日中過ごしてもらうこともある 病室で臥床して安静を保つことも必要であるが、「慣れたホーム」に過ごしてもらうことで、早期の退院受入を準備している</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病気が発見された際には、今後の治療方針について、医師と話し合ってもらっている 積極的な治療を望まれる方、痛みのないように保存的な治療を望まれる方、環境を変えないでホームでの療養を望まれる方もおられる それぞれの家族のご希望に沿えるように、医師・看護師共相談をし、必要であれば適当な病院・施設を紹介している</p>	<p>看取りに関する考え方として、医療的処置が常時必要となった場合は、主治医の説明のもと他施設へ移ることとなっている。終末期であっても、隣接している診療所と連携して、ホームでの生活を希望される利用者の思いを酌むようにしている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接している有床診療所からの支援を受けられる体制にある 入所者の急変時や事故・災害時などに看護師や事務職員の支援を受けることができる</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時には隣接している診療所の2階に避難することになっていて、避難の際は診療所の職員の応援を受けることとしている 避難訓練においては、避難先を診療所として誘導の訓練を行っている また夜間・日曜祝日なども診療所の看護職員が常時勤務しているので、避難なども診療所看護職員の応援を得ることとなっている</p>	<p>クリニックの存在や、1週間分の備蓄により、安心した対応ができる。年2回の避難訓練も夜間想定や消防への連絡の訓練など、適切に実施できている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めた話し方をするにしても、スタッフがつけた「呼び名」「○ちゃん」とは呼ばず、また命令や指示するような口調とならないことを申し合わせている。時に指示的になりやすいので、事あるごとに申し合わせている	入居者の心と身体と尊厳を大切にするという理念が日々のケアに活かされている。 入所者には親しみを込めて接するが、名前を下の名前や愛称で呼ばないように、言葉遣いを含めて、敬意も示すことを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちや要望を言葉に出来ない利用者、難聴で通じにくい利用者もおられる。自分の思いを表してもらえるような声かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームにおいてはおおまかな日課は決まっているが、どうしても拒否をされる方に対しては、無理強いをすることをしない。声かけをする者を変えたり、違う予定を提案するなど、本人の意向を尊重するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設なので日中は普段着、夜間はパジャマに着替えてもらっている。普段着は4~5着持ち込んでもらっているが、多くの方は自分でダンスから服を出して自分が選んだ服に着替えられている。更衣や整容が困難な方は職員が手伝っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「手伝いをしたい」という利用者もいて、そういった方には座ったままできる野菜の皮むき、食器拭きなどをお手伝いいただいている。そういったことが苦手な方には無理強いはない	オーナーが育てている野菜を使った手作りの食事を提供している。調理過程でも、食材を大切にしたいなど感じ取れるよう心掛けている。 食事の際には、通常は職員も家族のように一緒に食べ、食事に集中できる環境づくりを徹底している。 毎月のイベントの時などは、入所者の食べたいものをデリバリーしたりして、メリハリをつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼の力は個々に違うので、利用者個々に配膳量・形態(普通食・キザミ食・全粥など)を定めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	半分くらいの方は義歯を使用しているが、自分の歯が残っている方も多く、食後の口腔ケアは欠かせない。食後のたびに利用者本人にしてもらっているが自分でできない方には、職員が介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意便意が乏しくなっておられる方や訴えのできない方に対しては、時間を決めてトイレに誘導をし、トイレで排泄していただくようにしている	入所者の状態に応じ、リハビリやパットを使ったり、トイレ誘導の仕方を決めたりして、皆で共有し介助している。毎回の便チェックも行き、体操を取り入れたりして体調管理に努めている。 トイレにはカーテンを付け、ケアの際にもプライバシーが確保されるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足、水分不足になりがちであるが、日々の排便の状況をチェックし日々の生活の中で取り組めることを支援している。便秘が数日続いた際には緩下剤服用や洗腸などを囑託医と相談し行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一般浴は週3回行い、職員が見守り介助を行っている。浴槽のまたぎができない方には同一敷地内にある診療所の機械浴を週2回、職員2人の介助で行っている。入浴の曜日・時間帯は固定している	浴室は明るく清潔で、週3回の入浴を実施している。浴槽は段になっており、腰を掛けながらゆったりと湯に浸かる事が出来る。 3分の1以上の入所者が隣接クリニックで機械浴を利用しているが、機械浴であっても週2回の入浴が確保されている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の状態に応じ、居室で臥床あるいは自由に過ごしていただいている</p> <p>トイレ誘導などの見守りが常時必要な方は談話室で他の利用者と一緒に過ごしてもらっている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局の薬剤情報、おくすり手帳は寮母室で管理し、日常服用している処方薬を把握している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>テレビ以外に読書・パズル・新聞などに興味を持たれる方はもごく少数おられる 「自分の時間」「ひとりの時間」を望まれる方には、そういった時間を過ごしてもらっている</p> <p>書籍・ラジオや中には仏壇を持ち込まれ心経を唱えることを日課とされる方もおられた</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で外出制限を引き続き行っているため、家族との外出はできていない 「歩きたい」という利用者の要望もあるので、希望される方は朝夕散歩として職員付添で行っている</p>	<p>歩く機会を大切に、毎日朝と昼の2回、希望者を募って近所を散歩している。</p> <p>散歩に行けない入所者とも、駐車場や玄関前で外気浴をしながら歌を歌ったりしている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金の持込を認めてはいないが、財布を持たないと不安な方にはご家族と相談の上少額持ってもらっている方もおられる</p> <p>本人の望む化粧品やハガキ・切手・衣類などはご家族さんに面会時にお持ちいただいている</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙(ハガキ)を書きたい、電話をしたい、という要望があれば応えるようにしている</p> <p>面会制限の中で帰宅願望が強くなることもあるので、ご家族との通信は支援している</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分は日中利用者の生活の場であるため、室温・明るさには気をつけている</p> <p>またテレビや音楽の音量についても、大きすぎて不快とならないように音量の上限を定めている</p>	<p>高い吹き抜けから日差しがよく入るため、事業所全体が明るく感じられ、室温も保たれている。定期的な換気を行い、掃除は入所者と一緒に行っている。</p> <p>毎月季節の絵を描き、ぬり絵や貼り絵をみんなで作り、飾っている。</p> <p>入所者が家庭的な「自分の居場所」を認識できるような雰囲気づくりを行っている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホームの中で「一人」になれる場所は居室と玄関の長椅子くらいであるが、利用者によっては自分の判断で自ら移動をされ佇まれている</p> <p>他の利用者の部屋や他のユニットに行っておしゃべりをしていることがある</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>危険がなければ居室には自由になじみのものなど持ち込んでもらっている</p> <p>クッションやぬいぐるみ、家族の写真、造花など置かれている</p> <p>仏壇を持ち込まれた方は朝夕水を供え、心経を唱えられていた</p>	<p>居室の大きな窓からは、山や空が見え、季節や天気を感じることができる。</p> <p>利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の部屋、トイレなど新しい環境となつて、わかりにくいことがある</p> <p>目印や貼り紙をつけることで、自分で場所を理解し、慣れてもらうようにしている</p> <p>また職員も声かけをしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない